



## 1. 平成29年度 学校方針

### (1) 学園の建学精神

「実学教育」と「人格の陶冶」

### (2) 学園の教育の目的

人に愛される人 信頼される人 尊敬される人 を育成することにある

### (3) 本校の教育目標

自立した学習者の育成  
社会に役立つ人材の育成

### (4) 本校教育の三大方針（智・徳・体）

智をほりおこす「叡智教育」  
心をみがく「道徳教育」  
体をきたえる「健康教育」

### (5) 本年度の学校経営方針

- ① ひとりひとりの児童を大切にす学校
- ② 信頼され、魅力ある学校
- ③ 子どもたちを中心に保護者・教職員がひとつになる学校

### (6) 本年度の重点目標

- ① 定員確保に向けた児童および園児募集活動のさらなる充実を目指す
- ② 本校独自の幼小一貫教育を確立する
- ③ 児童・保護者対応への組織的な取り組み体制を確立する
- ④ 高い進路保障と柔軟な進路選択を確立する
- ⑤ ICT教育の一層の推進に取り組む
- ⑥ 学校行事および宿泊行事の充実を推進する
- ⑦ ビオトープの活用に向けて組織的な取り組みを推進する
- ⑧ 本校独自の英語教育の充実に取り組む
- ⑨ 保教会活動の検討を推進する

## 2. 近畿大学附属小学校 学校評価について

### (1) 学校評価の目的

具体的な視点で重点化した年度目標や具体策の達成状況を把握し、評価サイクルの繰り返しによって、学校運営を改善し、教育の質の向上を図るとともに、学校関係者評価の実施や評価結果の公表等の取り組みを含めた、年間を通した評価活動を実施することにより、教育内容の充実を図る。

### (2) 学校評価の種類

自己評価：教職員による評価ならびに、児童アンケート・保護者アンケート・保教会運営委員アンケートによる結果

学校関係者評価：附属中・高等学校校長、附属幼稚園副園長、近友会会長、保教会会長、校長、教頭により構成する評価委員会が、自己評価の結果について評価するとともに、改善策等についての提言・勧告を行う。

### (3) 評価基準

S：目標を上回って達成した（4.5～5.0） A：目標どおり達成した（3.8～4.4）

B：取り組んだが達成できなかった（3.1～3.7）

C：ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった（3.0以下）

### 3. 自己評価について

#### (1) 教職員による評価

<p>1. 学校経営の重点</p> <p>(1) 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開かれた、信頼される学校づくりを進めるため、学校として、あるいは、学校やクラスとして抱えている課題に対し、組織的な学校運営を行う。</li> <li>○ 学校行事および宿泊行事の充実に向けて、本校の教育目標に沿った形で改善を図る。</li> <li>○ 教育活動を広く公開、発信していくことで、在校生保護者との信頼関係づくりに努める一方、開かれた学校づくりを通して、定員確保に向けた児童・園児募集活動を展開する。</li> </ul>		
評 価 項 目	取 り 組 む 内 容 ( 指 針 )	達 成 状 況
①組織運営	初期対応に重点を置き、教育相談室長、学年主事、学年主任と連携を深め組織的な対応を行う。学年会、学年主任会を有効に活用し、必要に応じて柔軟に話し合いの機会を持つ。「報告・連絡・相談」を組織的に行う。	A
②学校行事の運営	新たな学舎・学習旅行については、今年度の実践を振り返り次年度への改善を図ると共に、従来からのものについても、系統性のある学舎・学習旅行を構築するために検討を進める。	A
③情報の発信・児童募集活動	学校便りや学級通信、きんちゃんしょうちゃん日記、月刊近小等を通じて、家庭や入学希望者への情報発信と子育て支援を充実し、定員確保に向けた児童・園児募集活動を強化する。	A
結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点		
<p>① 学級での事案を学年主任・学年主事と共有し、組織だった対応をすることができた。連絡すべき人や場所がはっきりしており、事案が発生すれば相談しやすい環境が整っている。学年主事や教育相談室長が常に気を配り、細かく丁寧な指導・助言を行い、仕事をスムーズに行えるよう工夫している。専科の教員やフロア担当の教員共、さらに連絡を密に取り合って、情報の共有化や対応について教員個々の資質の向上を目指し、今後も学級内や児童への小さな変化も見逃さないように心がけ、初期対応を迅速に行っていききたい。</p> <p>② これまでの実践をもとに、学舎・学習旅行の改善が進んできている。引率教員も増員し、より丁寧に引率、指導できるようになり、保護者の安心感も得られている。どの学年も、目的を明確にさせて様々な体験に取り組み、普段の学校生活では経験できないことを実施できている。ただ、現地の見学が盛り沢山になりすぎて、児童の負担が加重にならないようにスケジュールの検討などは今後も継続して見直していく必要がある。特に、学舎では宿舎での生活を中心に据え、ゆとりをもって目的を達成できるような配慮が必要である。</p> <p>③ 開かれた学校づくりに向けての情報発信として、学級通信、専科からの通信、きんちゃんしょうちゃん日記等、充実した内容で、保護者から信頼を得ることができた。きんちゃんしょうちゃん日記では、児童募集にも効果があった。月刊近小の取り組みは、大変好評で、保護者への学びの場の提供とともに、教員への信頼感を高めるよい機会となった。学級通信等の発行は、教員の負担増にならないような発行数の見直しなど新たな取り組みを図っていききたい。少子化が急速に進む中、児童・園児への募集活動は、定員確保へ向けて全教職員が意識を高く持って、次年度以降も取り組んでいきたい。</p>		
<p>2. 学習指導・研修の重点</p> <p>(1) 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 附属幼稚園と連携を一層推進し、幼小のつながりをより明確にした、本校独自の幼小一貫教育を確立する。</li> <li>○ 問題解決学習を基盤にした授業をすすめ、ICT教育の推進やプログラミング教育の導入を図るとともに、子供たちが意欲的に学ぶことのできる学習環境を充実させる。</li> <li>○ 教員一人一人が本校で果たすべき役割を自覚できるよう、各種研修を充実させるとともに、授業研究を通して指導力の向上を図る。</li> </ul>		

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 幼小一貫教育の確立	幼稚園の研究保育への参加、交流授業の実践、幼小一貫カリキュラムの作成、家庭学習や副教材の検討	B
② 学習環境の充実	タブレットを使った授業や異学年での交流授業の実践、壁面掲示の充実、プログラミング教育の導入に向けての検討、各教科等の特性を生かした学習機会の充実	B
③ 近小の教員としての教員研修	授業研究の実践、コンプライアンス研修、学年主任研修、ICT研修、基本研修、西私小連研修など各種研修への参加と伝達研修の実施	A

結果と分析・次年度への改善点

- ① 幼稚園の保育内容と1年生の学習内容とのつながりを明確にし、一覧表として提示することができたが、まだその具体的な運用について結論が出ていない。小学校にとって附属幼稚園はなくてはならない存在であり、入学時には学年の核としての活躍を期待したい子供たちである。附属幼稚園と附属小学校の円滑な接続のため、なお一層、幼小の話し合いの機会を増やし、相互理解を深めたい。
- ② タブレットを使う頻度が増えている。その活用方法を共有する必要がある。タブレット・プロジェクターの数が少なく、取り合いになっているのが現状である。来年度、9月に120台のiPadが揃い、高学年各教室にプロジェクターが完備されるが、今後徐々に傷んでいくであろう機器をどのように更新していくのか、タブレットの個人購入の可否についても検討を進めたい。  
壁面掲示を含め、教室の清掃の様子、授業の準備物など、学習環境を一律に整える取り組みも必要である。
- ③ 様々な研修を行えたが、新任研修が少ない。新学習指導要領や英語科の必修化、特別の教科道徳の教科化などについての研修も必要である。また、国語・算数・体育についての教員のスキルアップが必要である。  
フロー研修は、他の教員の授業を参観することができ、大変よかった。ベテラン教員の模範授業も大いに参考になった。学年での検討会についても意味があった。しかし、1年間満遍なく実施できるよう、学校行事なども考慮したうえで、日程の調整をすることが必要である。また、それぞれの授業研究や研修が単発で終わってしまい効果を上げていない。授業を参観すると、進度に支障をきたす恐れもあるので、複数体制を整えるなどの工夫が必要である。

3. 生活指導・児童活動・保健衛生・環境整備の重点

(1) 目標

- 規範意識を育成し、高めていくための具体的な目標を設定し、学校全体で徹底した指導を行う。
- 子供たち自らが諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。また、異年齢交流を深め集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。
- 体育的行事を通して、安全な行動や規律ある集団行動を体得し、運動に親しむ態度を育てるとともに、体力の向上を図る。
- ビオトープの活用に向けて組織的な取り組みを推進する。

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 生活指導と安全	全教員による年間生活目標（挨拶、身だしなみ、登下校マナー）の徹底指 児童指導規定の作成等	B
② 児童活動	学級会の充実 実行委員会による集会等の企画・運営 たてわり活動や附属幼稚園との活動（なかよし活動）の実施	B
③ 保健衛生と体育	体育的行事の計画的な実施と内容の見通し	A
④ 環境整備	ツリーハウス設置の計画と実施	B

結果と分析・次年度への改善点

- ① 年間目標を立てて、朝礼や放送、生活向上委員会や週番の活動などを通して、規範意識を高め、定

着を図ることに努めた。高学年の落ち着きや苦情の減少等、登下校のマナーは良くなっている面も多い。今後も継続した指導を行うとともに、教員間での問題の共有、危機管理意識の向上を図る必要がある。

- ② 実行委員による集会の企画運営が計画的に実施できた。フロアの特徴を生かしたたてわり活動や幼稚園との交流も積極的に行われた。限られた機会の中での内容の充実、年間を通した計画等が課題である。話し合い活動や集会等の態度等、学級、学年、フロアの取り組みを基として、児童が主体的に活動できるよう、さらなる工夫が必要である。
- ③ 運動会は、プログラムを見直し、学年に応じたより充実した内容で実施することができた。運動週間を設定し、児童の運動機会の増加、体力向上を図ることに努めた。また、怪我防止につながるよう、運動週間前や運動会前に近小タイムを実施した。今後、より効果的な運動内容、定着に向けた工夫が必要である。また、熱中症対策に加え、インフルエンザの対策等も課題である。
- ④ 学園の協力により、自然と調和した魅力的なツリーハウスが完成した。新たな遊び場としてだけでなく、掲示などを工夫して季節感溢れる近小のシンボルとなるよう、また、学園とのつながりを深めるものとして有効に活用していきたい。ただ、安全面を考慮したルールにより、児童が自由に活動できる場になっていないのが現状である。児童が身近にかつ積極的に関わられるものとして、ビオトープ全体の在り方の検討が必要である。

#### 4. 進路指導・学習評価の重点

##### (1) 目 標

- 個々の学力推移を的確に把握し、進路に対する保護者の意向や児童の思いを尊重しながら進路指導を進めていく。
- 何事にも元気に真面目に頑張る態度を身に付けさせ、附属中学校・高等学校の6年間で十分についていける人物を育成していく。
- 進路追認を進めていくとともに、卒業生による進路学習を充実していく。

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 適切な進路指導	個々の学習状況の把握に努め、必要に応じた支援の取り入れ また、高学年においては、各中学校の情報を収集・共有し、進路指導の充実	A
② 進路保障(内部進学)	努力評定を基準とした内部推薦制度を運用していくとともに、今後を見据えた新たな制度の構築	A
③ 保健衛生と体育	卒業生NW委員会と連携しながら、卒業生による進路学習の充実	A

#### 結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点

- ① 個々の学習状況の把握に努め、必要に応じて補充学習を取り入れ、効果を上げることができた。また、3学期に行った「学力考査」においては、学年全体から見た個々の学習状況の分析をし、課題のある児童への指導の方向性を指し示すことができた。今後も、より効果的な支援を進めていき、確実に基礎学力の定着を図るようになる。  
学力面においては、より効果的な支援を進めていき、確実に基礎学力の定着を図ることができるようになる。
- ② 本年度より、努力評定を取り入れた内部推薦制度を運用し、内部推薦者51名を決定した。次年度からの附属中学校へのさらなる進路保障を構築していくとともに、第4学年に努力評定を導入し、本校が目指す方向性を保護者にも発信することができた。今後、評価基準等の精査ならび児童指導規定を基にした判定基準を充実させていく。  
ゼミ指導においては、保護者説明会を開催し、ゼミの主旨・学校での学習姿勢・家庭学習の大切さについて伝えてきた。次年度より基礎学力の着実な定着を目指し、ゼミ参加者にはeラーニングの導入ならびに論理的な思考力を育成する作文学習に取り組ませていく。  
努力評定の評価基準等の精査をしていくとともに、小学校で全てを完結できる新たな進路保障を構築していくとともに、近小ゼミの内容の充実を進めていく。
- ③ 進路追認を定期的に進めるとともに、人材バンクを活用した卒業生による進路学習を年間6回実施することができた。今後も、卒業生による進路学習を充実させていく。  
進路学習においては、さらなる充実を図っていく。

## (2) 児童アンケートの考察

児童へのアンケートとして、「ふりかえりシート」を実施したところ、この1年間、様々な活動や体験を通して「一所懸命頑張った」「頑張ってきたので、こんなことができるようになった」といった肯定的な自己評価が多く、児童が学校生活を満喫している姿が伝わってきた。また、学校行事への意見なども多く寄せられ、関心の高さ、充実感もうかがえた。少数意見であるとはいえ、否定的な意見も見られたので、しっかり受け止め、児童の確かな成長に活かせるよう、教職員一丸となって教育活動を進めていく所存である。

## (3) 保護者アンケートの考察

1年間を振り返り、子供の成長を喜んでおられる意見を多数いただいた。併せて、担任等の対応に対する労いの言葉も多くいただいた。また、本校の教育活動についても建設的な意見を多数頂いた。それらの意見に甘受することなく、厳しい意見にも真摯に受け止め、来年度の教育活動に活かしていく所存である。

尚、各項目別の内容ならびに改善を図るべく方向性等については、次の通りである。

－学校方針について－

学校方針・教育方針については、従前同様、叡智教育・道徳教育・健康教育の調和のとれた教育活動の充実に努める。今後も、本校の伝統を引き継ぎながら、時代のニーズに応えられるよう教職員一丸となって取り組みを進めていく。また、近畿大学学園の附属校として、幼稚園・小学校・中学校・高等学校、大学との連携を一層深め、より充実した教育を推進していく。校外学習や体験学習を積極的に取り入れながら、充実した教育活動を進めていく。

－学習指導要領の改訂を受けて－

英語の教科化に向けて、平成30年度より全学年にて週2時間の授業を実施する。また、指導内容についても検討し、ALT（ネイティブスピーカー）とも連携して、授業の充実とカリキュラムの構築を図っていく。また、体験的活動を取り入れながら、本校独自の英語教育の確立を目指した取り組みを進めていく。来年度より、4・5年生を対象とし、英国オックスフォードサマースクールへ参加することにする。

教員研修を進め、ICT教育機器整備のさらなる充実に努め、自ら積極的に意見発表をし、自ら進んで学習に取り組める主体的な学習者の育成を目指す。そのためにも、平成30年度より全学年でプログラミング教育にも取り組むこととする。

－学校行事について－

学舎・学習旅行は、来年度も信貴山（1年）、吉野（2年）、比叡山（3年）、中京方面（4年）、東京方面（5年）、北海道（6年）、白浜（6年）で実施する。行き先、内容については、マネジメントサイクルに則り、今後も見直し、検討を進め、さらに、充実した学舎・学習旅行になるよう改善に努める。

水泳学習、運動会、耐寒訓練・生駒登山、運動週間（リレー・ボール・縄跳び）などの体育的行事は、来年度も本年度同様実施する。内容については、今後とも検討を重ねていく。

その他の学校行事についても、さらに充実したものとなるよう検討し、改善していく。

－生活指導・安全指導について－

今年度も「あいさつ」「身だしなみ」「登下校マナー」を重点目標として、学校全体で取り組みを進めてきた。各ご家庭のご理解とご協力を得ながら、今後も継続してマナー向上の取り組みを進めていく。安全指導に関しては、様々な状況を想定し、本校独自の防災訓練を学期毎に実施している。より安全な学校を目指し、今後も取り組みを進めていく。なお、児童の位置情報が手軽にスマートフォンやタブレット、パソコンで表示できる機能を備えたGPS端末を取り扱う業者と連携している。

－ケータリング給食について－

週3回のケータリング給食を、学期毎の選択制を取り入れ実施してきた。安全で安心して摂食できるよりよいケータリング給食を目指して、業者と協議を進めていく。今後、さらに児

童が楽しみにするようなケータリング給食となるよう改善を進めていく。来年度は、保護者対象のケータリング試食会を計画している。

－放課後について－

低学年では、外部業者に委託し、放課後の学童保育を取り入れている。また、外部業者に委託し、サッカー、バスケットボール、器械体操、英会話、新体操等の活動を取り入れ、放課後の課外活動の充実に努めている。また、短時間であるとは言え、放課後の校庭開放も実施し、友達と共に活動する時間の確保に努めている。来年度も継続して、児童が充実した学校生活を過ごすことができるようにしていく。

－近小ゼミについて－

高学年では、教員が役割分担し、習熟度別のグループ編成での近小ゼミやステップUP学習を実施している。来年度より、児童個々の学力の状況に合わせた学習を促進するため、eラーニング教材として評価の高い「すららネット」を近小ゼミに導入する。

－進路・進学について－

進路・進学についての情報の開示に努めるとともに、各学年に応じた進路説明会の実施等により、柔軟な進路選択と高い進路保障を実現するための取り組みを進めていく。併せて、附属中学校へは、得点や模試の偏差値では測れない学力や主体的に行動することができる力を持つ児童を推薦する基準に基づき、附属中学校への進路を保障する。

－保教会活動について－

児童を中心に保護者、教職員が一つとなれるように、保教会行事等の精選を行い、今後ともよりよい関係の構築に努めていく。また、保教会役員・委員の負担が過剰とならないように、継続して協議を進めていく。

－学級や授業の雰囲気について－

若手教員の指導力の向上はもとより、各教員の資質・指導力・力量等の向上に努め、学年集団の連携を深め、それぞれの学年の指導の充実に努める。また、ホームページ等を活用して、学校生活の様子をより詳細に開示していく。

#### (4) 保教会運営委員アンケートの考察

学年として連携して教育活動を展開しているが、新任とベテラン、子供に対する声かけの違い等が見られるため、学級差が生じないように基本研修（若手教員対象の研修）等、早急に是正して欲しい。教室内の清掃に不十分さが見受けられるので、生活指導の一環として、教室等の清掃にも注力して欲しい。週末や長期休業中の宿題がかなり多いため、検討して欲しい。ケータリング給食については、週5回を含め、現状通り希望制の中で回数を増やす等改善をすすめて欲しい。音読カード、日進月歩等はすばらしい取り組みなので、是非とも継続して取り組みを進めて欲しい。来校時の周辺駐車場への駐車、参観時のおしゃべり等、保護者の一部の方の行動や言動とはいえ、周りに迷惑をかけている。私学に通わせる保護者としてのモラルの確立が必要である。

### 4. 学校関係者評価について

#### (1) 教職員による評価の結果について

本校の教育活動について概ね高評価を得た。しかしながら、幼小一環教育の確立やプログラミング教育をはじめとした学習指導要領の改訂に即した学習環境の整備や指導の改善、生活指導や児童活動については、一層の充実に努めるべく、取り組みを進めていくようにとの提言を受けた。

#### (2) 児童によるアンケート結果について

肯定的な自己評価が多いことについて、高評価をいただいた。今後とも、引き続き、近小の伝統を受け継ぎながら、近畿大学学園の附属小学校として、教育の質の向上を目指した取

り組みを推進していくことを望むとの提言を受けた。

### (3) 保護者によるアンケート結果について

学校に対する厳しい意見が少ないとは言え、実際にあることを踏まえ、批判に対しては、謙虚に耳を傾けると同時に、速やかに改善を図るようとの提言を受けた。

### (4) 保教会運営委員によるアンケート結果について

多くのコメントが寄せられていることから、保教会活動が子供を中心として、保護者と教職員が一つとなって展開され、教育活動に多大に寄与していると評された。今後とも、行事の負担軽減や精選等、スリム化を目指して、時代に応じた保教会活動の在り方について、支援していくようとの提言を受けた。

### (5) 総括

以上、本年度の教育活動について了承が得られた。引き続き、近畿大学学園の附属小学校として、附属幼稚園との一貫教育に基づく教育活動を展開するとともに、附属中学校・高等学校、大学との連携を深めていくことで、私学としての質の高い教育を提供し、児童や保護者の信頼や期待に応えられるよう教育改善を進めていくようとの提言を受けた。

そこで、来年度は、次の11点を具体的方策として掲げ、教育活動を推進していくことを提案し、了承を得た。

- ① 児童募集活動の充実
- ② 本校独自の幼小一貫教育の確立
- ③ 附属中高との連携強化
- ④ 教員研修の充実
- ⑤ 児童・保護者への組織的対応の推進
- ⑥ 高い進路保障と柔軟な進路選択の実現
- ⑦ ICT教育の推進
- ⑧ 学校行事及び宿泊行事の充実
- ⑨ ビオトープの活用
- ⑩ 本校独自の英語教育の確立
- ⑪ 保教会活動の検討



# 近畿大学附属小学校

KINDAI UNIVERSITY ELEMENTARY SCHOOL